

「ごんざえもんパーク」。この土地に住む者ならば、一度は行つたことのある遊園地だ。市を一望できる観覧車に、大人も子供も楽しめるジェットコースター。色とりどりのコーヒーカップに、メリーゴーランド。それ以外にも、先代が自らの目で選んだアトラクションが立ち並んでいる。先代の意向によつて、入場料を払えば全てのアトラクションに乗れることができる遊園地は、他県からもたくさんのお客様が来ていた。時代と比べると現在は閑散としているが、時代の荒波にもまれながらも、地域の遊園地として現在も家族連れが多く来場している。

## 【ごんざえもんパーク、五十周年】

「ごんざえもんパーク」の新マスコットキャラクターについてのプレゼン資料を持参した「中村」は、プレゼン資料の最終確認を進めていた。

斜め前にはマスコットキャラクターのキャラクター・デザインを担当する新進気鋭のデザイナーであり、中村の高校時代の同級生でもある「NAO」が座っている。有名企業に採用されることもあるからか、不安で落ち着かない様子の中村とは違い、余裕そうな表情だ。その向かいには、中村の同僚である「神宮寺」が机の上に置かれた資料をパラパラとめくつてている。すぐ横では、今年四月に新卒としてこの会社に入社した「鈴木」がキヨロキヨロとあたりを見ながら何をすればいいのかを探つていて。見かねた経理担当の「飯田」がお茶の指示を出すと、鈴木はそそくさと給湯へと向かっていった。廊下から社長の革靴の音と秘書である「権田」のヒールを鳴らす音が聞こえてくる。その足音に、それまで腕を組みながら周囲を静観していた「骨川」が眉をひそめた。中村が大きく息を吸い込む。その息を吐き終わった瞬間、音を立てながら会議室のドアが開いた。今、会議が始まろうとしている。